

今、探究を どう進めるか？

「総合的な探究の時間」の本格実施から2年が経過しました。

「これでいいのだろうか」「本当に意味があるのだろうか」…。

時にはそんな不安やモヤモヤを抱きながら

取り組まれている先生もいらっしゃるのではないのでしょうか。

探究が学校の日常になっていく今だからこそ、生徒にとって、
先生にとってどんな意味があるのか、そして実際にどのように取り組んでいくのか。

本特集の何か一つでも、皆さんの探究活動の一助となるよう、

『キャリアガイダンス』では改めて考えてみました。

構成・文／長島佳子

探究の ここまで を見る

5

ページ



「探究」は個々の学校の裁量で進められていることから、自校の位置づけがわかりにくい場合もあります。全国の先生や高校生への調査や教育関連のデータから、客観的な探究の近況を見てみましょう。



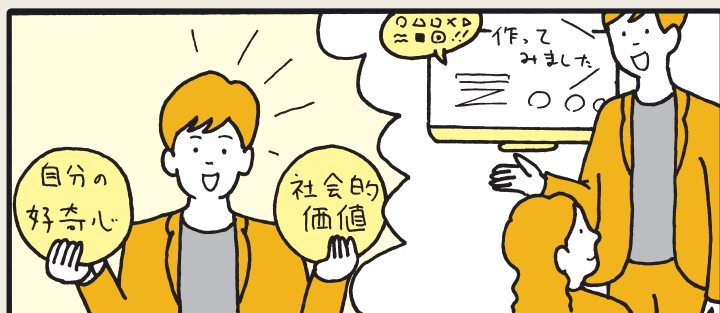
「期待している」
と回答した生徒

64.7
%

なぜ探究なのか

11
ページ

なぜ学習指導要領で探究が重視されているのでしょうか。そもそも探究の意義とは何なのでしょう。改めて探究の基本に立ち返るとともに、探究的なマインドを重視する企業事例とともに紐解いていきます。



27
ページ

探究と社会とのつながりは？

「自分なりの課題=問いを見つけ、解決策を探る」。探究のカギとなる問いは地球、地域、家族、組織、商品、働き方などあらゆる事象に存在し、それらに挑む人々で社会は成り立っています。自治体、企業、起業した組織などで活躍する社会人たちの具体例から、探究と社会のつながりを探ります。

40
ページ

どう推進していくか

探究をカリキュラムとして始めてみて、さまざまな壁に直面している先生や学校の声が多く聞かれます。学校外との連携、予算、評価、指導法など、模索しながら解決策を見つけている学校の実践事例を、壁の乗り越え方の参考にさせていただければと思います。

